



NHKの朝ドラでアニメ業界を舞台にした「なつぞら」を放送しているせいか、お世話になっている方に旅行で訪れた

という鹿児島島の「知覧特攻平和会館」の貴重なお話をうかがったせいか、はたまた終戦記念日が近づいているせいか、ふいに「火垂るの墓」が観たくなり、DVDをレンタルしました。(^^)でも、いざ観ようと思うと心の準備というか、観るのになかなか一歩を踏み出せない。

ドロップ缶と節子の場面が先に思い出されてしまいます。

そうだ。まず野坂昭如氏の原作本を読もう。

Amazonでポチったら早速本が到着しました。

電車の中で読もうと思いましたが、いやいやちょっと待て。

電車の中で泣いたら、変な人と思われる。。

だいたい、本の表紙がこんなやし。(>\_<)



「火垂るの墓」  
野坂昭如(著) 新潮文庫



そんなこんなで僕のどうでもいい葛藤がある中、とんでもない火事のニュースが飛び込んできました。最初にそのニュースを知ったのは、お客様と就業規則の項目について打ち合わせをしている時のこと。

**「社員は、安全衛生に関する法令および会社の指示を守り、常に職場の整理整頓に努め、消防具、救急品の備付場所、避難具ならびにその使用方法、避難経路などを熟知しておくものとする。」**

この項目についてお話しをしたところ、「そうですね。今日、京都のあんな火事があった所ですから大切ですな。」とお客様がおっしゃいました。

言われた時は、なにか火事があったのかなと思った程度でしたが、それほど規模の大きなものだったとは、またそれが放火で、対象となった会社が実は国内外で評価の高い有名なアニメ制作会社だったとは・・・二重、三重の驚きがありました。

就業規則は、従業員を縛るものと思われがちですが、あくまで会社を継続・発展させることを目的として定める**経営者からのメッセージ**です。

万が一の事態を考え、従業員の意識を高めることも大切なメッセージだと思います。

さて表紙の祇園祭の写真。

京都の金襴・西陣織などの懸装品や工芸装飾品だけではなく、シルクロードを経て持ち込まれた美術工芸品で豪華絢爛に飾られる山鉦の巡行は、最大の見せ場です。祇園祭の前祭の山鉦巡行の「鶏鉦」の見送(みおくり)は、16世紀に現在のベルギーで製作され、江戸時代に日本に渡ってきたというギリシャ神話のタペストリーです。トロイア戦争に出陣する、トロイアの王子でありトロイア最強の戦士でもある、勇者ヘクトールと妻子との別れのシーンといわれています。

父に駆け寄り息子と静かにほほ笑む妻。まるでアニメのような図柄です。

戦争の結果トロイアは陥落。ヘクトールは敵軍のアキレウスに殺され、妻はアキレウスの子の戦利品となり、息子は殺されたと言います。

8月は長崎と広島に原爆が投下され、終戦を迎えた月でもあります。

過去、祇園祭が途絶えたのは応仁の乱や太平洋戦争の時期だそうです。

正直僕は日頃は戦争についてあまり考えたことがない、戦争を知らないおじさん。

それでもこの時季くらいは、この先もずっと祇園祭が存続されることを祈りたいと思います。

